



昨年10月に開かれた第11回全日本
フロアホッケー競技大会にも出場

「パス!」「ナイスシュート!」
放課後の体育館に生徒の声が響き渡ります。

新潟県立江南高等特別支援学校放課後活動クラブ「K A A C (カーク)」は、保護者の有志が平成23年に立ち上げました。外部から指導者やボランティアを募り、保護者が当番制で生徒支援や設備管理を担当しています。学校の部活動と違い、分校の生徒や卒業生も参加でき、他校の生徒と一緒に活動することもできます。

スポーツはバスケットボールとフロアホッケーがあり、両方とも放課後の活動だけでなく、夏休みに合同合宿を行ったり、県内外の大会に参加したりしています。生

放課後クラブで卒業生や高校生と共に活動

徒の「もっと上手になりたい」「頑張りたい」という気持ちに応えようと、さまざまな取り組みを計画・実施しています。

バスケットボールは、新潟のフロアバスケットボールチームのスクールコーチから技術指導を受けています。一つでも多くを習得しようとする生徒の表情は、真剣そのものです。

フロアホッケーは、近隣の高校の生徒とチームをつくりユニファイド大会に参加しています。障害の有無に関係なく、同じルールの下で力を合わせて相手のゴールを狙います。互いに認め合い、助け合う、登下校での擦れ違いだけでは築かれない関係が生まれています。

卒業したメンバーも参加しやすいように、休日の活動も増えてきました。旧交を温め、日々の様子を語り合いつつ、一緒にスポーツを楽しんでいます。

K A A Cが障害者スポーツの場として、生涯スポーツの場として、一層充実していくことを期待しています。

(菅原一美・新潟県立江南高等特別支援学校教諭)